

# 検診「とても重要」

製鉄室蘭病院  
公開セミナー 婦人科のがん説明

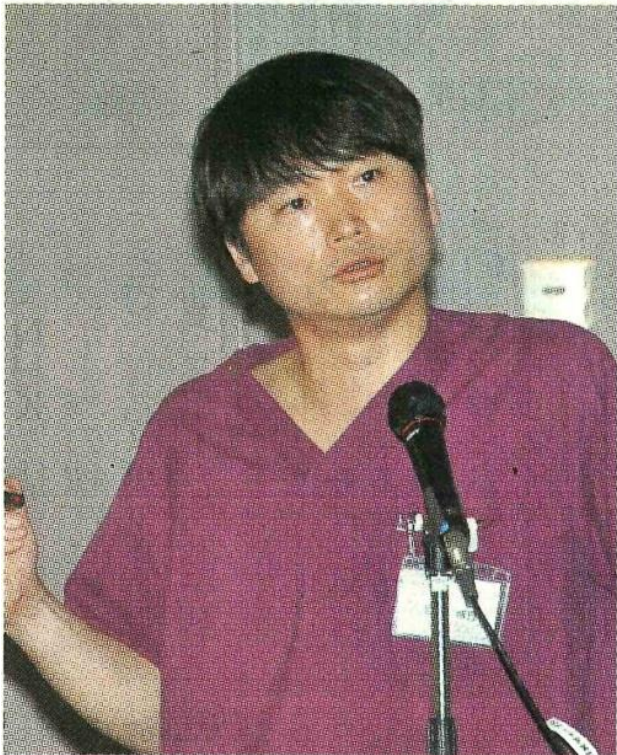
製鉄記念室蘭病院（前田征洋病院長）の「第45回市民公開がんセミナー」が7日、室蘭市知利別町の同病院がん診療センターで開かれ、市民らが「婦人科のがんの特徴と検診の重要性」について学んだ。

女性約40人が耳を傾ける中、産婦人科の恐神博行科長が、ヒトパピローマウイルス（HPV）がほとんど原因となる「子宮頸がん」、閉経後から増え始める「子宮体がん」のほか、初期で見つかることが非常に難しい「卵巣がん」の診断と治療法などを説明した。

さらに、子宮頸がんと子宮体がん検診に超音波検査を組み合わせても、「2分前後で終わる。内診室に入ってから5分ほどで終わる」とし、「日本産科婦人科学会では2年に1回の子

宮がん検診を推奨している。初期で見つかる可能性が高いため、ぜひ、受けてほしい」と強調した。

また、子宮がん検診の受診率が低く推移する現状に触れ、「子宮頸がんの検査は20歳を超えたら必要。個人的には、10代の学校教育の中で考える必要もある、と思う。検診の重要性を理解されていない母親も多い」と指摘。参加した女性からも検診の重要性に理解を深めていた。（松岡秀宜）



「婦人科のがんの特徴と検診の重要性」について解説する恐神科長